

御霊の一致を保ちなさい

2023年8月27日

エペソ人への手紙 4章1～6節

序：エペソ人への手紙の構成

1～3章	教理（教義）	教会論（キリストにある新しい共同体）
4～6章	実践（行い）	あるべき姿・道徳
		4・1～6・9 教会の行い
		6・10～20 教会の闘い
		6・21～24 結び

I. 主にある囚人

キリスト・イエスは主人 — 自分はそのしもべ
∴ 命令に従う、救いに召された者として生きる

これから、勧めることは、同じく主の救いへの召しにあずかったエペソ教会向け
勧めをするパウロもそれを聞くエペソの聖徒たちもキリストのしもべとして歩む

4・1～16 勧めに入る前に、新しい共同体（教会）の一致の確認

II. 召しにふさわしい歩み（救われた者らしく生きる）

- ①謙遜 心の貧しい者、へりくだった者 （神なくしては無益・無力・無一物）
卑下とは異なる マタイ 5・3 天の御国を所有
- ②柔和 自分をへりくだらせ、自分の感情に負けない強さ 例：モーセ 民 12・3
軟弱とは異なる マタイ 5・5 地を受け継ぐ
- ③寛容 神がかたくなな人間に示された忍耐、見捨てない
- ④忍び合う とともにいることが難しい者同志が、愛をもって

III. 御霊の一致

教会 = ユダヤ人信者＋異邦人信者（ペンテコステ ～ 空中擧
二つのものが一体化・一致するには
愛の絆 = 完全な絆 ヨハネ 3・14
平和の絆 = 一致の絆

御霊の一致であって、気心の一致ではない



御霊によって生み出される一致 ∴ 信者の内に御霊は住んでおられる
御霊が賜る一致

∴ 御霊の一致を熱心に保ちなさい

Ⅳ. 御霊の一致の実質

(1)からだは一つ



キリストのからだとしての教会＝聖なる公同の教会（天の目に見えない教会）
キリストに連なる真の信者の総体

(2)御霊は一つ

コリント I 12・13 私たちは皆、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

(3)召しの望みは一つ

召されたキリスト信者に共通の望み 1・18 コリサイ 1・27 ロマ 5・2

(4)主はひとり

コリント I 8・6 私たちには父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によってすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです。
信仰の対象 神でありまた人である贖い主、我らの所有者

(5)信仰は一つ

救いに至る信頼 （贖い主イエス・キリストへの信頼）

(6)バプテスマは一つ (2)参照

主はひとり、信仰はひとつ ⇒ 信仰のしるしバプテスマも一つ
教会の一員となる、聖なる一致へ参加する礼典 ⇔ 一致の維持・進展の礼典
聖餐

(7)父なる神はひとり

すべてのものの上に在る＝いと高き天で、治める主権者
すべてのものを貫き ＝ すべてを貫き、浸透し、いのちを与える統御者
すべてのもののうちにおられる ＝ 信者のうちに御霊により宿り、内住される神
すべてのものの父

V. 結び

- (1)V. 1～6：教会（信者の群れ）において、救いの恵みはみな同じ 「一つ」「一体」
V. 7～16：各々の信者に与えられる賜物は千差万別、多種多様
Ⅱ コリント I 12章：からだはひとつ、しかし多くの器官（細胞）から成る

- (2)主はひとり、信仰も一つ、ゆえにその主への信仰の証しがバプテスマ（順序が大事）
なので、バプテスマも一つ ∴主も信仰もないバプテスマは無意味

- (3)地上に見える教会に加えられるのは洗礼（バプテスマ）という聖礼典による（新生）
その聖なる一致を維持・継続・進展させるのが聖餐という聖礼典である（聖化）

- (4)教会の聖徒たちの一致は御霊によって与えられる天与のもの（人為的ではない）
この一致を「気心の一致」に置き換えないように（人為的な一致は歪み、崩壊する）

- (5)平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい
それを奪い損なう悪魔の働きは強力・巧妙・継続